

インターバンクの声（2016 年 11 月 7 日）

週末、米労働省が発表した 10 月米雇用統計は、非農業部門就業者数が前月比 16 万 1 千人増と市場予想をやや下回ったものの、8 月、9 月分が上方修正され、失業率も 0.1%低下した。さらには平均時給〈賃金〉も堅調な伸びを見せ、12 月の追加利上げに向けてより追い風となる内容だった。普段であれば無条件にドル買いが進むような内容だったが、やはりトランプ氏が大統領選に勝利する「トランプ・リスク」への警戒感が強く、ドルの上値が重いままニューヨークでの取引を終えた。ドル円は米連邦捜査局 (FBI) のクリントン氏への国務長官時代の私用メール問題への再捜査を表明した後に付けた 102 円台からは少し持ち直しているが、ニューヨーク株式市場は、S&P500 が 9 営業日連続して下落するなど、より強い影響を受けている。経済政策などが全く見えないトランプ氏が当選する可能性が高まれば高まるほどリスク回避姿勢が強まるのは仕方がないところだが、市場にはクリントン氏が勝利したところで実際にドル買いに向っていいのかにも疑問が出始めている。どうにも厄介な相場展開になって来てしまった。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。